

竹内治彦教授(左)から修了証を受け取る受講者。大垣市北方町、岐阜協立大



カイゼンリーダー
56人に修了証授与

岐阜協立大学院の
養成プログラム

岐阜協立天大学院は、トヨタ生産方式を実践するカイゼンリーダー養成プログラムの成果発表会と修了証授与式を大垣市北方町の同大で開き、10期生56人が巣立った。

県内23企業・団体が受講し、作業工程や資材の配置、運搬ルート、在庫の見直しといったカイゼンの実践で計約2億3200万円の成果を上げた。

発表会ではサンメッセ、中部興産、トーカイ、秋田屋本店、水明館の代表者が成果を報告。「バロー物流センター・チルド・ドライ商品の生産性向上」をテーマに発表した中部興産の代表者は「いかにお金をかけずにカイゼンするかを考えるようになり、意識が大きく変化した」と振り返った。

指導した山田直志非常勤講師は「6カ月で学んだことはトヨタ生産方式のほんの一部だが、大きな成果が上がった」と総評。竹内治彦教授は「人手不足、経済環境の混乱をカイゼンで乗り切ってほしい」と話し、修了証を手渡した。